

授業科目	食品機能学 Food Functional Science		担当教員	松川 典子				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	選択				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				○
授業目的	近年、食品は3つの機能性から評価され、とくに生理機能については、健康維持・増進、疾病の予防・症状の改善を目的とした食品成分の活用、あるいは食品開発などの側面から注目されている。本講義では、生理機能に關与する食品成分について、その効果、作用機序を教授し、管理栄養士に求められる食品の生理機能に關する知識の修得、その種の情報を適切に判断するための能力を最新エビデンスに基づき身につける。							
到達目標	1. 機能性食品に対する行政上の位置づけ、法的規制、表示等を説明できる。 2. 生理機能を發揮する食品成分の種類、作用のメカニズムを説明できる。 3. 新たな開発が進む様々な機能性食品を科学的に説明できる。							
関連科目	食品科学Ⅰ、基礎栄養学							
テキスト	青柳康夫「食品機能学」(建帛社)							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	80	授業内で前回の内容に関する小テスト(20%)を実施し、全体の授業内容に關連する定期試験(80%)を実施することで学習到達度を評価する。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
その他								
履修上の留意事項	関連科目(食品科学Ⅰ、基礎栄養学)の内容を復習した上で授業に臨むこと。各授業の前後に1~2時間の復習を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	食品機能学	食品機能学の講義概論、ガイダンス			事前:シラバスを確認する。教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)			
2	栄養表示基準、機能性食品	食品表示法、保健機能食品の制度、対象食品について			事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)			
3	抗酸化性機能成分	活性酸素、抗酸化メカニズム、抗酸化を有する食品について			事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)			
4	難消化性・微生物活性機能1	食物繊維の働き、消化吸收促進と代謝改善機能について			事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)			
5	難消化性・微生物活性機能2	難消化、吸収阻害および微生物活性機能食品の三次機能について			事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	脂質代謝関連機能 1	中鎖脂肪酸・植物ステロールの機能について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
7	脂質代謝関連機能 2	n-3系脂肪酸、n-6系脂肪酸、コレステロールの機能について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
8	酵素阻害、酵素活性化機能	血圧上昇抑制成分の種類と作用機構について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
9	消化関連酵素阻害と糖尿病	血糖値上昇抑制成分の種類と作用機構について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
10	免疫系に及ぼす機能 1	免疫機能を活性化する成分について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
11	免疫系に及ぼす機能 2	食物アレルギーについて	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
12	神経系に及ぼす機能	神経系に影響を及ぼす食品成分について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
13	時間栄養学	時間栄養学とは、からだのリズムと栄養について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
14	抗加齢医学	抗加齢医学とは、抗加齢成分・食品について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
15	まとめ	講義のまとめ、試験	事前：これまでの授業内夜を復習する。(1時間) 事後：試験問題を復習する。(1時間)

授業科目	管理栄養士総合演習 Practical Seminar of Registered Dietetics			担当教員	坂本 恵、荒川 義人、板垣 康治、岡本 智子、 千葉 仁志、濱岡 直裕、百々瀬 いづみ、山部 秀子、 金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、 氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年			選択・必修	必修			
授業形態	演習			単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	◎	◎	○	○
授業目的	専門教育科目の学修を通し、4年間で修得してきた管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目の関連性を理解したうえで、食と健康に関する問題点や疑問点を明確にし、修得した各科目を横断的かつ総合的に判断し、問題解決する能力を身につける。また、4年間の成果の総仕上げと位置づけ、修得した知識と技術を統合し、管理栄養士として社会で活躍できる実践力を再確認し、補足する。							
到達目標	1. 専門基礎科目・専門科目における学修目標を習得している。 2. 各科目を横断して、問題解決できる総合的な能力を身につけている。 3. 卒業後の置かれた立場で、管理栄養士として、職務を実践できる基礎的な知識と技術を身につけている。 4. 管理栄養士国家試験合格のための総合力を修得する。							
関連科目	各教員が担当している管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目							
テキスト	資料を配布する							
参考書	クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		到達状況を小テストおよび取り組み姿勢により総合的に評価する。 模擬試験、補講等を実施するので必ず出席すること。 その他：取り組み姿勢					
	レポート							
	小テスト	70						
	提出物							
その他	30							
履修上の 留意事項	管理栄養士の国家試験の対策として重要な科目である。必ず出席し努力を継続して実力アップをはかること。模擬試験などの成績は変動するが、努力を継続することが国家試験合格の道となる。補講等は必ず受講する事が基本事項である。臨地実習や就活などで欠席する場合は必ずその旨を教員に事前に連絡すること。進捗状況等により補講内容等の順序が変更になることがある。各授業後に理解度を確認するために行われる小テストは必ず受けること。基準点に達しない場合は補講、課題、再テストなどを行う。							
課題に対するフィ ードバックの方法	小テスト終了後、解答を渡すので自己採点する。間違ったところは配布プリントなどで復習するよう促す。わからない箇所がある場合は個別に対応する。							
実務経験を 活かした教育内容	各分野の担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら授業を効果的に進めていく。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1 (坂本)	ガイダンス 専門基礎科目の知識 の確認	管理栄養士総合演習について 管理栄養士に必要な基礎的な知識について 専門基礎科目の補講（食べ物と健康）					管理栄養士国家試験について予習する。授業内容を復習する。勉強計画を立てる（2時間）。	
2 (松川)	専門科目の知識の確 認	専門科目の補講（基礎栄養学）					基礎栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。	
3 (千葉)	専門基礎科目の知識 の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）					人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。	
4 (金高)	専門基礎科目の知識 の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）					人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。	
5 (津久井)	専門基礎科目の知識 の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）					人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (荒川)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）	食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
7 (濱岡)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）	食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
8 (板垣)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（社会環境と健康）	社会環境と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
9 (岩部)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（応用栄養学）	応用栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
10 (岡本・氏家)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（臨床栄養学）	臨床栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
11 (百々瀬)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（栄養教育論）	栄養教育論を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
12 (山部・渡辺)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（給食経営管理論）	給食経営管理論を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
13 (槌本)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（公衆栄養学）	公衆栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
14 (岡本・氏家)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（臨床栄養学）	臨床栄養学（応用問題）を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
15 (坂本)	全科目の確認	全科目の総まとめ	国家試験過去問題を確認し覚える（2時間）。

授業科目	臨床栄養学Ⅳ Clinical Nutrition Ⅳ		担当教員	岡本 智子				
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		○	
授業目的	内分泌疾患、電解質異常、がん、手術、周術期患者の管理、クリティカルケア、摂食機能の障害、身体・知的障害、乳幼児・小児疾患、妊産婦・授乳婦の疾患、老年症候群等の疾患等について病態別栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、実施、評価、フィードバック）の方法を修得する。栄養管理計画作成に必要な情報収集と理由、情報にもとづく栄養評価、栄養診断、栄養ケア計画の作成とその根拠、モニタリング、評価・計画の作成について学修する。さらに、チーム医療における管理栄養士の役割（実践症例の栄養評価及び栄養計画の作成・マネジメント）、他専門職との連携等について具体的に理解を深める。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床栄養学Ⅱ、Ⅲにあげた到達目標を達成したうえで、さらに今回学修した疾患について知識を積み上げて修得している。</li> <li>2. がんの化学療法と栄養管理の問題点、解決法等を考えることができる。</li> <li>3. 高齢者の栄養管理における問題点と解決法等を考えることができる</li> <li>4. 妊娠期・周産期の栄養管理と問題点、解決等を考えることができる。</li> <li>5. クリティカルケアにおける栄養管理について説明できる。</li> <li>6. 食物アレルギーを理解し、具体的な食事の管理について説明できる</li> </ol>							
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ							
テキスト	上原誉志夫外 第4版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館（2022年度臨床栄養学Ⅲで使用のもの）							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		課題レポート40% その他：小テスト50%、授業態度10% で評価する					
	レポート	40						
	小テスト	50						
	提出物							
その他	10							
履修上の 留意事項	各授業の前後にそれぞれに2時間の予習・復習を要する。興味を持って、積極的に授業に参加してほしい。							
課題に対するフィ ードバックの方法	レポートにはコメントを付して返却する。小テストにはその場で解答と説明を行う。							
実務経験を 活かした教育内容	高度な栄養管理が必要な疾患を臨床の現場をイメージさせながら、症例をもとに講義を進め、また具体的な栄養ケアが実践できるように課題を出しながら、技術やスキルを身につけていくように授業を進めていく							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	疾患・病態別栄養管理 (1)	臨床栄養学Ⅲの振り返り、この授業の目的、授業の流れ、次回までの課題の実践方法、レポート提出について			シラバス、教科書を確認して授業の準備をする(2時間)。授業の内容をまとめ、復習する(2時間)			
2	疾患・病態別栄養管理 (2)	内分泌疾患(甲状腺・副甲状腺・副腎)			事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			
3	疾患・病態別栄養管理 (3)	Ⅰ型糖尿病、小児糖尿病			事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			
4	疾患・病態別栄養管理 (4)	小児の疾患における栄養管理 先天性代謝異常			事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			
5	疾患・病態別栄養管理 (5)	妊産婦の疾患:妊娠高血圧、妊娠糖尿病			事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			
6	疾患・病態別栄養管理 (6)	症候・症状の原因、鑑別法と栄養障害の評価(フィジカルアセスメント)			事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	疾患・病態別栄養管理 (7)	肝臓・膵臓疾患 代償期・非代償期の栄養管理	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
8	疾患・病態別栄養管理 (8)	がんの栄養管理 : 化学療法、放射線療法、悪液質	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
9	疾患・病態別栄養管理 (9)	がんの栄養管理とチーム医療(緩和ケアチーム)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
10	疾患・病態別栄養管理 (10)	精神疾患患者の栄養管理 認知症(GS 谷文乃氏)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
11	疾患・病態別栄養管理 (11)	高齢者の栄養管理とチーム医療	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
12	疾患・病態別栄養管理 (12)	周術期における栄養管理 電解質異常、アシドーシス・アルカローシス	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
13	疾患・病態別栄養管理 (13)	クリティカルケア:ICU・CCUにおける栄養管理とチーム医療	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
14	疾患・病態別栄養管理 (14)	摂食機能障害、身体・知的障害 口蓋裂・顎裂	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
15	疾患・病態別栄養管理 (15)	食物アレルギー まとめ	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)

授業科目	臨床栄養学実習Ⅲ Clinical Nutrition Practicum III		担当教員	岡本 智子				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	実習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○	◎	○
授業目的	提示された合併症を伴う複雑な困難症例について、栄養ケア計画の作成に必要な情報を整理し、栄養アセスメントを行う。栄養アセスメントの総合評価として、徴候・症状等の基礎データを整理しプロブレムリストを作成する。それらをふまえて栄養ケア計画を作成するとともに、モニタリング、評価・計画の作成、チーム医療における栄養管理の展開と手順について実習を通して理解する。提示された症例についての栄養ケア計画から評価、チーム医療における展開について、プレゼンテーションを行う。発表後はグループディスカッションによって、臨床現場における実践力、応用力を養う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養ケアプロセスが理解できる基本的な疾患症例について栄養アセスメント、栄養ケア計画の作成することができる。</li> <li>2. 基本的な疾患症例や合併症を伴う疾患、また病態の変化にあわせた栄養障害疾患症例を対象にについて栄養アセスメント・栄養診断、栄養ケア計画作成し、モニタリング・評価が実施できる。</li> <li>3. 対象者の QOL を考慮し、栄養ケア計画作成と栄養・食事療法を实践すべき献立の評価を行なうことができる。</li> <li>4. 提示症例の栄養評価、ケア計画をチーム医療の場で根拠に基づいて説明することができる。</li> <li>5. 提示症例について、口頭及びポスターなどで症例報告のプレゼンテーションができる。</li> </ol>							
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ							
テキスト	なし							
参考書	上原誉志夫外 「第4版 最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際」 光生館 「臨床栄養学 栄養ケアプロセス演習－傷病者個々人の栄養ケアプラン作成の考え方－」							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 課題レポート・提出物：50% その他：グループ活動と発表：50%で評価する。					
	レポート	25						
	小テスト							
	提出物	25						
その他	50							
履修上の留意事項	示された症例については自ら考え、さらにグループ内で検討し栄養ケアプランを立案し実践してほしい							
課題に対するフィードバックの方法	症例をまとめ発表するところでコメントを付す							
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス 授業の目的	職業倫理 守秘義務 栄養ケア・マネジメントについて					シラバス、テキストを確認して授業の準備をする (2時間)。授業の内容をまとめ、復習する (2時間)	
2	栄養ケアプロセス (栄養アセスメント、栄養診断、評価、モニタリング)	病棟に行く準備 栄養評価 患者への説明など 栄養ケアプロセスに則っての流れを知る					事前：配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)	
3	糖尿病と栄養管理 (1)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理①栄養アセスメントと栄養診断について					事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)	
4	糖尿病と栄養管理 (2)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理②栄養管理計画書作成					事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	糖尿病と栄養管理 (3)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理③他グループとのディスカッション 患者への説明	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
6	消化器術後の栄養管理 (1)	胃がん切除後における栄養管理 ①栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
7	消化器術後の栄養管理 (2)	胃がん切除における栄養管理 ②プレゼンテーション 患者への栄養指導と栄養指導報告書作成 (SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
8	消化器術後の栄養管理 (3)	胃がん切除における栄養管理 ②入院から外来へのフォローアップについて	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
9	肝疾患の栄養管理 (1)	NASH の栄養管理 ①栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
10	肝疾患の栄養管理 (2)	NASH の栄養管理 ②プレゼンテーション 患者への栄養指導と栄養指導報告書作成 (SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
11	肝疾患の栄養管理 (3)	肝硬変の栄養管理③栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。患者への栄養指導と報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
12	肝疾患の栄養管理 (4)	肝硬変の栄養管理(蛋白不耐症) ④栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。患者への栄養指導と報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
13	栄養投与方法	静脈栄養・経腸栄養のプランニング方法	前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
14	栄養投与方法	栄養投与方法の確認:濃厚流動・輸液の実際(シミュレーター、ポンプ、輸液セット)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
15	栄養投与方法	栄養投与方法の確認:濃厚流動・輸液の実際(シミュレーター、ポンプ、輸液セット)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)

授業科目	栄養サポートチーム論 Theory of Nutrition Support Team		担当教員	岡本 智子、氏家 志乃、看護学科教員(未決定)				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・後期		選択・必修	選択				
授業形態	講義		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	○		◎	○
授業目的	栄養サポートチーム(NST)の活動現場を知り、チーム医療連携における専門職としての基本的な知識、技術、態度を学ぶ。							
到達目標	NST活動におけるチーム医療連携の意義を説明できる。 NSTのケアを必要とする対象者に対して管理栄養士として栄養ケアプロセスに則り、栄養アセスメント、栄養計画立案、評価を行うことができる。また、診療録(栄養ケア記録)書けるようになる。 チームとして機能するために、他職種とのコミュニケーションの重要性を理解する。 課題にむけて専門職種間で連携するための役割を理解し行動に結び付けることができる。							
関連科目	開講時までに示す							
テキスト	なし							
参考書	初回授業で紹介する							
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点					
	試験		レポート40%(岡本10%・氏家10%・看護学科教員10%・10%) 提出物:課題20%(岡本5%・氏家5%・看護学科教員5%・5%) その他:発表・資料作成・チーム活動40%(岡本10%・氏家10%・看護学科教員10%・10%)					
	レポート	40						
	小テスト							
	提出物	20						
その他	40							
履修上の留意事項	具体的症例の提示と多職種からのコメントを活かし栄養ケアに活かす							
課題に対するフィードバックの方法	提出物やレポートは翌週の授業時にコメントを付して返却する							
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとに具体的事例を示しながら理解を深める。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1 (岡本)	チーム医療の理解についてI	ガイダンス。チーム医療とは何か。チーム医療における管理栄養士の役割について。他職種の役割について。					事前にシラバスを読んでおく(事前学習1時間)。	
2 (氏家)	栄養サポートチームの活動を理解する1-1	困難症例(糖尿病性腎症)に対する栄養評価と栄養ケア計画を立案し検討をする					事前:配布資料により予習する(2時間)事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)	
3 (看護学科教員)	栄養サポートチームの活動を理解する1-2	グループで困難症例(糖尿病性腎症)に立案した計画の評価と再プランの設定。栄養ケア記録を作成する。発表をするための準備をする。					事前:配布資料により予習する(2時間)事後:授業内容を整理し、まとめる(3時間)	
4 (氏家)	栄養サポートチームの活動を理解する1-3	困難症例(糖尿病性腎症)に症例をまとめ、発表した症例を検討する。教員からのアドバイス。					事前:配布資料により予習する(2時間)事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)	
5 (看護学科教員)	栄養サポートチームの活動を理解する2-1	困難症例(褥瘡・低栄養)に対する栄養評価と栄養ケア計画を立案したものを検討する					事前:配布資料により予習する(2時間)事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)	
6 (看護学科教員)	栄養サポートチームの活動を理解する2-2	困難症例(褥瘡・低栄養)に立案した計画の評価と再プランの設定。栄養ケア記録を作成する。発表をするための準備をする。					事前:配布資料により予習する(2時間)事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(3時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (看護学 科教員)	栄養サポートチームの 活動を理解する 2-3	困難症例（褥瘡・低栄養）に症例をまとめ、発表した症例を検討する。	事前：配布資料により予習する（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノ ートにまとめる（2 時間）
8 (看護学 科教員)	症例に基づく栄養管理 を学ぶ	発表した症例に対してディスカッション。教員からのアドバイ ス。	全体を振り返り、レポートをまと める（2 時間）

授業科目	地域栄養活動演習 Community Nutritional Program Practicum		担当教員	槌本 浩司				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	選択				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		○		◎		
授業目的	地域栄養活動の基本は、地域に住む全ての人の健康・生活の質向上という目的をもって、地域の活動体を組織し、健康の保持・増進に他職種と連携して取り組むことである。地域栄養活動における各種サービスやプログラムの調整、社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理の仕組みについて、実際の事例をもとに学修する。また、札幌市等の公表データをもとに、アセスメント、課題抽出、目標設定、媒体作成、模擬活動等を通して実践力を身につける。							
到達目標	1. 健康増進プログラムの対象・目的を理解している。 2. 集団の食事評価についての方法を説明できる。 3. 地域、職場等における食生活改善プログラムを作成できる。 4. 統計的なデータをもとに、集団を評価することができる。 5. プレゼンテーション力を身につけている。							
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、栄養教育論、応用栄養学							
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」(医歯薬出版) 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。							
参考書	テーマごとにプリントを配布する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況をレポート、提出物、その他で評価する。 その他：課題、活動に取り組む姿勢 20% 活動報告発表(内容含む) 20%					
	レポート	30%						
	小テスト							
	提出物	30%						
その他	40%							
履修上の留意事項	実践的な学修であり学外の方々へ接する機会等がある、社会人としての基本的姿勢、礼儀をもって対応することは勿論、十分に事前学修、知識の整理をしておくことが必要である。活動報告等に要する授業時間の割り振りは履修者数により変動することがある。							
課題に対するフィードバックの方法	演習時個々に課題の進捗状況に合わせコメントを実施するとともに、課題発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康栄養マネジメント全般の内容を演習に織り交ぜながら、地域栄養活動の実践について理解しやすいように授業を行います。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンスと自治体における栄養活動 1_1)	活動の実践と展開の方法について				事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。		
2	自治体における栄養活動 1_2)	健康づくり関係法規について要約し解説できる。 行政栄養士の業務の違い(通知文書、実務の解釈) 都道府県・政令市等・市町村の役割分担の違い ・地域保健法に基づく役割分担が説明できる。				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。		
3	政令指定市における健康・栄養活動 1_1)	札幌市(各区・北海道・全国)の統計情報を要約できる。 (主要死因・医療費・生活習慣病) 健康札幌 21 と健康日本 21 (国) の比較 北海道、札幌市の健康増進計画について				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。		
4	政令指定市における健康・栄養活動 1_2)	札幌市(各区・北海道・全国)の統計情報を要約できる。 主要死因、SMRの推移と現状について 札幌市の健康増進計画とその現状値について				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅰ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅰ-1 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
6	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅰ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅰ-2 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	健康づくり事業実施案 発表Ⅰ-3)	健康づくり講話資料の作成Ⅰ-3 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-1 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-2 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-3)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-3 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-1 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-2 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-3)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-3 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	健康づくり事業実施案 の発表Ⅰ-1	健康づくり講話の発表Ⅰ-1 講話資料の整理と印刷と発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	健康づくり事業実施案 の発表Ⅰ-2	健康づくり講話の発表Ⅰ-2 講話資料の整理と印刷と発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	総合演習 II Practical Seminar of Nutrition II		担当教員	百々瀬 いつみ、板垣 康治、岡本 智子、坂本 恵、千葉 仁志、濱岡 直裕、山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	○	○	○	◎	◎
授業目的	各専門分野を横断して、専門分野のこれまでの学びで修得した基礎知識や技術に加え、臨地実習を通して実践的に修得した知識・技術、管理栄養士としての役割の理解をふまえて、グループワークで課題に取り組み、知識・技術を統合し、応用・活用して課題解決を図るとともに、この過程を通してコミュニケーション能力、お互いの知識・技術の交換や役割分担等、基礎的能力に加えてさらに各自が管理栄養士としての能力を高めることを目的とする。複数の教員の指導により各専門分野の知識を統合して演習形式で学修を進める。							
到達目標	管理栄養士として活動できる基礎的な能力に加えて、活用・応用できる能力が身についている。							
関連科目	1～3年次に履修した各分野の既修科目が全て関連する。							
テキスト	特になし(資料を配付する)							
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の達成状況を下記の視点から評価する。 ・提出物：分野ごとに課題に沿った資料作成を課す。 (レポート・プレゼンテーション資料等) ・その他：授業時の発表、取り組み姿勢を評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
その他	50							
履修上の留意事項	1.各分野の苦手、理解不足などを解消するために、事前に自習して、積極的にとりくむこと。 2. 目標を共有し、メンバーが役割を分担しチームワークで成果を出すように考えること。							
課題に対するフィードバックの方法	提出物に関して授業内で解説したり、コメントを付したりして返却する。							
実務経験を活かした教育内容	各分野の担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら授業を効果的に進めていく。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1 (百々瀬) (坂本) (松川)	ガイダンス、 フードサイエンスⅠ	総合演習Ⅱの概要 食品機能と調理					事後学習に1時間ほど要する	
2 (津久井) (金高)	フードサイエンスⅡ	食品機能開発 健康増進・疾病予防と食品の機能					事後学習に各1時間ほど要する	
3 (板垣)	フードサイエンスⅢ	食品機能とアレルギー					事後学習に1時間ほど要する	
4・5 (槌本) (濱岡)	栄養疫学	データの収集、管理、応用について EBMにもとづいた評価、治療について、具体的なデータの扱い方					事前・事後学習に各1時間ほど要する	
6～9 (岡本) (氏家)	臨床栄養学	臨床現場における疾患別・病態別の栄養管理					事前・事後学習に各1時間ほど要する	
10～12 (百々瀬) (坂本) (槌本) (渡辺)	地域社会における 栄養活動	地域社会における根拠にもとづいた評価、栄養活動					事前・事後学習に各1時間ほど要する	
13～15 (百々瀬) (千葉) (山部) (氏家) (岩部)	栄養教育	ライフステージ(大学生)と栄養教育 根拠に基づいた栄養教育の実施					事前・事後学習に各1時間ほど要する	

授業科目	卒業研究 Graduation Study			担当教員	坂本 恵、安念 保昌、板垣 康治、岡本 智子、 加藤 隆、千葉 仁志、濱岡 直裕、百々瀬 いづみ、 山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、 氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年			選択・必修	選択			
授業形態	演習			単位数	2単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○		◎				
授業目的	管理栄養士としての専門分野において修得した知識等を総合的に活用し、研究課題を設定、研究計画作成、資料の収集、実験や資料の分析、報告書の作成、ディスカッションなどを繰り返しながら、最終的な成果を発表するとともに論文を作成する。社会で求められる専門職業人としての研究能力を修得する。							
到達目標	1. 研究テーマについて専門的に追求し、研究成果を口頭で発表するとともに論文にまとめる。 2. 卒業研究を通して、発想力、分析力、問題解決能力を身につける。 3. 実験・調査・ゼミ活動、発表を通してコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。 4. 事象について、多くの人に理解されるような客観的な見解をまとめ、記述ができる力を身につける。							
関連科目	担当教員の専門分野（担当科目）と関連する							
テキスト	資料を配布する。各自のテーマが決定してから、ゼミ等を通して参考書等を検索する。							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する 提出物：研究テーマに関するレポートと調査計画書 10% その他：研究に対する取組姿勢 40%、口頭発表 10%、 研究論文内容 40%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	10						
その他	90							
履修上の 留意事項	卒業研究は各自がテーマを決定し、予備研究、本研究等を通して科学研究の方法を学びながら、研究論文完成へつなげてゆく。ゼミ発表、実験、調査、研究発表、論文作成について各自が積極的にとりくむ必要性から、研究内容によって個別対応になることがある。各自、授業外学習時間は必須である。進捗状況により内容が前後することがある							
課題に対するフィ ードバックの方法	担当教員が研究テーマに関連する内容について指導し添削を行う。							
実務経験を 活かした教育内容	各担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら効果的に進めていく。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1 (坂本)	オリエンテーション	卒業研究の今後の予定と、研究テーマの検討について				研究テーマについて調べ検討する。事前事後学習として1~2時間を要する		
2 (全担当 教員)	研究方法について	研究方法の検討、文献検索について				事前・事後学習として1~2時間を要する		
3 (全担当 教員)	研究計画について	文献資料収集、研究計画作成について				事前・事後学習として1~2時間を要する		
4 (全担当 教員)	研究計画検討①	研究テーマに沿った研究計画を作成し検討する				事前・事後学習として1~2時間を要する		
5 (全担当 教員)	研究計画検討②	研究テーマに沿った研究計画を作成し検討する				事前・事後学習として1~2時間を要する		
6 (全担当 教員)	研究計画書確定	研究テーマに沿った研究計画書を確定する				事前・事後学習として1~2時間を要する		
7 (全担当 教員)	研究活動①	研究計画に基づき、テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等				事前・事後学習として1~2時間を要する		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (全担当 教員)	研究活動②	テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等	事前・事後学習として1～2時間を要する
9 (全担当 教員)	研究活動③	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
10 (全担当 教員)	研究活動④	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
11 (全担当 教員)	研究活動⑤	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
12 (全担当 教員)	研究活動⑥	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
13 (全担当 教員)	研究活動⑦	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
14 (全担当 教員)	研究活動⑧	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）、 中間報告会の準備	事前・事後学習として1～2時間を要する
15 (全担当 教員)	研究活動⑨	卒業研究中間報告会	事前・事後学習として1～2時間を要する
16 (全担当 教員)	研究活動⑩	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
17 (全担当 教員)	研究活動⑪	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
18 (全担当 教員)	研究活動⑫	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
19 (全担当 教員)	研究活動⑬	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
20 (全担当 教員)	研究活動⑭	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
21 (全担当 教員)	研究活動⑮	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
22 (全担当 教員)	研究活動⑯	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
23 (全担当 教員)	研究活動⑰	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
24 (全担当 教員)	研究報告会準備①	発表スライドの作成	事前・事後学習として1～2時間を要する
25 (全担当 教員)	研究報告会準備②	発表スライドの確認とゼミ発表	事前・事後学習として1～2時間を要する
26 (全担当 教員)	研究報告会	研究成果報告会	事前・事後学習として1～2時間を要する
27 (全担当 教員)	卒業研究論文作成①	成果発表会等の結果をふまえて論文を作成する	成果報告会における指摘事項の再確認と論文作成に3時間程度要する
28 (全担当 教員)	卒業研究論文作成②	卒業研究論文の作成	作成した内容の確認、今後の予定の確認と作成に3時間程度要する

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
29 (全担当 教員)	卒業研究論文作成③	卒業研究論文の作成	引き続き内容確認、作成に3時間程度要する
30 (全担当 教員)	卒業研究論文作成④	卒業研究論文の完成	作成した内容について読み込み、確認し提出するため3時間程度要する

授業科目	地域連携ケア論Ⅳ Theory of Community-based Care IV				担当教員	澤田 優美、槌本 浩司、氏家 志乃、小川 克子			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	○	○		○	◎	○	
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る多職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して看護師、保健師、管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、4年次の本科目では、地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を活用しながら、提示された事例が、住み慣れた地域社会で自分らしく生活するために、どのような支援やシステムが必要なのかを具体的に考え、解決策を提示する。その過程で、学生自身が目指す専門職の立場から、どのような役割を担うことができるかについて考察を深める。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で生活する人々の視点で、事例の生活上、および健康上の課題を明らかにできる。</li> <li>・事例の課題解決のために必要な支援や地域ケアシステム・ネットワークについて提言できる。</li> <li>・専門職としての多職種連携の在り方を通して、自己の課題を考察できる。</li> </ul>								
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連する。								
テキスト	開講時に提示する								
参考書	開講時に提示する								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		各回、授業内容に応じた提出物(40%)を予定している。また、目標の達成状況をレポート(60%)する。詳細は授業の中で説明する。						
	レポート	60							
	小テスト								
	提出物	40							
その他									
履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲと一体の科目として学習すること。 各授業の前後に3～4時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行う。 また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 (澤田)	授業ガイダンス	ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲ」の振り返り。地域における生活者の健康課題と健康生活を支える専門職の専門性と役割について				授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には配付資料を確認し、内容を復習すること。			
2 (槌本)	地域における生活者の支援Ⅰ	地域における生活者の事例紹介				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			
3 (氏家)	地域における生活者の支援Ⅱ	地域における生活者の健康課題の発見についてⅠ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			
4 (小川)	地域における生活者の支援Ⅲ	地域における生活者の健康課題の発見についてⅡ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			
5 (小川)	地域における生活者の支援Ⅳ	事例が抱える健康課題解決のための支援についてⅠ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			
6 (槌本)	地域における生活者の支援Ⅴ	事例が抱える健康課題解決のための支援についてⅡ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (氏家)	地域における生活者の支援 VI	事例が抱える健康課題解決のために必要な支援やシステムについて	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。
8 (澤田)	地域における生活者の支援 VII	専門職としての多職種連携のあり方と事故の課題について	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。

授業科目	給食経営管理論実習Ⅲ Field Practice in Nutrition and Food Service Management III				担当教員	山部 秀子、百々瀬 いつみ、渡辺 いつみ		
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年				選択・必修	選択必修		
授業形態	実習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○	○	◎
ねらい	児童生徒の栄養管理を中心に給食の運営や関連の資材（設備、食材、人材、情報、資金等）を総合的に判断して、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を実践の場において養い、マーケティングの原理、給食の組織や運営管理等が実践の場でどのように活用されているのか等を実践的に学修し、学内で学んだ知識と技術の統合を図る。また児童生徒個々の特徴を考慮した上で、栄養管理のために喫食状況の把握、栄養・食事管理、食材管理、作業管理の分析、衛生管理、衛生教育、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決のための検討などについて実践の場で学修する。さらに他部署・部門、多職種との連携を図るための方法や管理栄養士の役割を学修する。							
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養ケア・マネジメントの基礎的知識、技術について説明できる。</li> <li>2. 栄養管理において重要な課題をあげ、その解決のため計画を立案できる。</li> <li>3. 多職種連携における管理栄養士の役割を説明できる。</li> </ol>							
関連科目	給食経営管理論Ⅰ、給食経営管理論Ⅱ、給食経営管理論実習Ⅰ、給食経営管理論実習Ⅱの他、これまでに学修してきた専門基礎科目および専門科目が関連する。							
実習内容	札幌市内の小学校等における実習							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。					
	レポート		提出物：20点（実習の目的、自主課題、施設課題）					
	小テスト		その他：80点（配分は以下の通り）					
	提出物	20	施設指導者の評価 30点 実習ノートの内容 30点					
その他	80	実習報告書の内容（実習の目的、課題の達成度について（発表を含む））20点						
履修上の留意事項	臨地実習で身につけた知識や技術をさらに定着させ、より深く管理栄養士の業務を理解するために、積極的に取り組むこと。これまでに学修してきたことを復習、整理しておくこと。利用者の特徴や対応等についても十分に事前学習し、臨地実習に臨むこと。							
課題に対するフィードバックの方法	実習目標の設定、課題への取り組みに対して、学生が主体的に進められるよう、随時助言をしながら、各臨地実習に向けての準備を進める。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習において学修する内容や準備について具体的に指導する。また臨地実習では実務を行っている施設職員や管理栄養士の実践的な指導により、管理栄養士の職務や役割等について実習を通して実践的に学ぶことができる。							
実習方法	<p>実習内容についてはオリエンテーションで説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 給食経営管理論実習Ⅲ臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設概要の把握 課題（自主課題または施設からの提示課題）の準備</li> <li>2. 実習 実習施設（小学校等）における実習（45時間）</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会での発表</li> </ol>							
実習施設	札幌市内の小学校等の給食提供施設							

授業科目	公衆栄養学実習 II Public Health Nutrition Practicum II		担当教員	槌本 浩司				
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	選択必修				
授業形態	実習		単位数	1単位				
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎		○	○	◎
ねらい	保健所や保健センター等において、地域保健活動における各所の役割や機能、地域住民を対象とした栄養管理に関わる管理栄養士の業務を実践的に学修する。国の健康増進施策等が地方公共団体でどのように計画、施策化、実践されているのかを学修する。また、住民への栄養・食生活の改善に関する事業を実践の場で体験し、様々な栄養関連サービスを必要とする人々に気づき、地域診断の結果から地域の優先的な健康・栄養課題を明確にし、課題解決にむけたプログラムの作成・実施・評価などについて学修し、実践活動の場で今まで修得した知識および技術の統合を図る。							
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生行政を理解している。</li> <li>2. 住民の健康増進事業を通して栄養改善業務および栄養行政の概要を把握し説明できる。</li> <li>3. 地域保健活動・健康づくり対策を理解している。</li> <li>4. 地域保健活動・健康づくり対策が多職種連携により行われていることを理解している。</li> <li>5. 地域栄養計画の立案、活動の進め方、評価、健康増進事業、地区組織の育成を体得している。</li> </ol>							
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、地域栄養活動演習、栄養教育論、応用栄養学							
実習内容	保健所または保健センターにおける実習							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	100%	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 実習先の評価 40%、 実習記録 20%、 報告書（成果発表を含む）40%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物							
その他								
履修上の 留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。</li> <li>2. 実習の準備・事後の整理は協力して行うこと。</li> <li>3. 実習保健所管内および保健センターの概要を把握しておくこと。</li> <li>4. 自身の実習課題を明確化し、到達目標を立て、効果的な実習となるよう臨むこと。</li> <li>5. 事前学習ノートの整理、報告書の作成は速やかに行い提出すること。</li> </ol>							
課題に対するフィードバックの方法	成果発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。							
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康増進施策など、公衆栄養活動の実践に必要な知識について理解しやすいように授業を行います。							
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明します。  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 公衆栄養学臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設管内概要の把握 課題（自主課題または実習施設からの提示課題）の準備</li> <li>2. 実習 実習施設（保健所、保健センター）における実習（45 時間）</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ（実習報告書） 実習報告会の準備 実習報告会での発表</li> </ol>							
実習施設	北海道保健所、札幌市保健所・保健センター							

授業科目	臨床栄養学実習Ⅳ Field Practice in Clinical Nutrition Ⅳ		担当教員	岡本 智子、氏家 志乃				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	必修				
授業形態	実習		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○			◎	○		◎	○
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種の連携を経験し、地域医療や在宅医療等についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。							
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。</li> <li>2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。</li> <li>3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。</li> <li>4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。</li> <li>5. 地域医療や在宅医療の概要について説明できる。</li> </ol>							
関連科目	臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ							
実習内容	病院施設における実習							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：事前準備(課題を含む)20%、実習ノート・事後報告 30% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 10%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
その他	50							
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。</li> <li>2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。</li> <li>3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。</li> <li>4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。</li> </ol>							
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。							
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項</li> <li>2. 実習 実習施設（医療施設）における実習</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表 (実習全体で90時間)</li> </ol>							
実習施設	札幌市内医療施設等							

授業科目	臨床栄養学実習 V Field Practice in Clinical Nutrition V		担当教員	岡本 智子、氏家 志乃				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	選択				
授業形態	実習		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○			◎	○		◎	○
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種の連携を経験し、NSTで介入する合併症を伴う複雑な症例についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。							
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。</li> <li>2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。</li> <li>3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。</li> <li>4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。</li> <li>5. 複雑な症例について栄養評価、栄養計画の作成ができる。</li> </ol>							
関連科目	臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ							
実習内容	病院施設における実習							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：事前準備(課題を含む)20%、実習ノート・事後報告 30% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 10%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
その他	50							
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。</li> <li>2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。</li> <li>3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。</li> <li>4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。</li> </ol>							
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。							
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項</li> <li>2. 実習 実習施設（医療施設）における実習</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表 (実習全体で90時間)</li> </ol>							
実習施設	札幌市内医療施設等							